

建設フェアで実体験の魅力を

四国建設広報協議会事務局



写真-1 どぼじょと作ろう工作教室 2016

1. はじめに

四国建設広報協議会（国土交通省四国地方整備局など、産学官25団体）では、建設フェアにおいて、展示品をみるだけでなく、実際に体験をとおして土木建設技術への理解や興味を持ってもらうことを目的に各種の体験型イベントを開催しました。

2. どぼじょと作ろう工作教室

どぼじょと作ろう工作教室は、平成26年度の建設フェアで初めて開催し、好評を得たもので、四国内にある建設系3高専（阿南高専、香川高専、高知高専）の女子学生が講師となり、来場した子供たちと一緒に3Dプリンターで製作した建設模型にデコレーションをしたり、ペーパークラフトを作成することで、ものづくりに興味をもってもらえるものです。

今回の建設フェアにおいても3高専の女子学生により実施し、多くの来場者で賑わいました。



写真-2 どぼじょと作ろう工作教室 2014

3. 左官体験コーナー

今回の建設フェアで初めて開催したもので、高知県左官タイル業協同組合の協力で、塗り壁体験や光る泥団子づくり、コテ絵（左官が壁を塗るコテで絵を描くもの）体験を行いました。

子供をはじめ高校生、女性にも人気でコーナーにはいつも人がいる状態で、予約をしてコテ絵体験をされた方もいました。

また、アンケート結果で左官体験コーナーが印象に残ったとの回答があったうちの3割が小・中学生であったことを考えると今回の開催は意義があったと思います。



写真－3 コテ絵体験に取り組む来場者

4. 災害疑似体験コーナー

建設フェア開催初期から実施をしている人気のコーナーです。降雨体験装置や土石流3Dシアターで豪雨や土石流が疑似体験できるものです。

自然災害に見舞われることの多い高知県ですが経験をしたことがない方もおられ、アンケートの回答にも「災害体験ができ今後の為になりました。」

「防災のことを真剣に考えさせられた」等の意見をいただいています。



写真－4 降雨体験装置による降雨体験

5. おわりに

建設業において、「担い手確保」は、喫緊の課題となっていますが、簡単に解決する妙案はありません。最近、子供が職業を体験するテーマパークができて人気となっていますが、建設業関係で体験できる職業は、建築士と大工の2種類と限られています。今回の建設フェアのアンケートの自由意見には、「子供が体験できるブースがあり、楽しんでいろいろと学ぶことができました」との声もあり、アンケートの全体集計においても、一般来場者が多く訪れた15日は、約4割の方が体験コーナーが印象に残ったと答えています。

今後も体験をとおして建設業にふれる機会を設けるなど、小さいころからものづくりの楽しさや建設業に興味を持ってもらえる地道な取り組みが重要だと考えています。